



平成21年6月22日  
卓話 『遠くても非常に近い国ミクロネシア連邦』  
ミクロネシア連邦 特命全権大使  
ジョン フリッツ 様



私が日本に初めて来たのは1978年。79年から日本の大学で勉強をして、一度国に戻って外務省に入省しました。初めてのポストは東京。一等書記官から公使を経て昨年4月に今の職になりました。実は私の母のお父さんが神奈川県出身です。戦前、仕事の関係でトラック諸島の水曜島にいて私のおばあさんと結婚しました。私は高校の時、自分のルーツを探したいと日本に来て日本語が好きになり、日本で生活を決心しました。それからもう30年、自分の人生の半分以上は日本です。

ミクロネシア連邦は独立前、アメリカの委任統治でした。東から西にかけて非常に広く約600の島から成り立っています。主要な島のヤップ諸島には世界一大きいお金、石のお金があります。価値は大きさによって決まるのではなく、やはり命を掛けて作った方が価値が高いです。

次のトラック諸島は私の出身地です。環礁は世界一大きいと言われていて、一周回ると300kmあります。環礁の中は船を置くのに安全なため、戦艦大和と武蔵が戦争前ここに寄った写真もあります。トラック諸島には日本人が沢山いたので、日本人が付けた春、夏、秋冬、月曜から土曜の名の島があります。ポンペン州はミクロネシア連邦の首都がある島です。雨がとても多くて360日のうち300日は降っています。コストラエは人口7000人。ほぼ100%クリスチャンで、日曜日必ずみんな教会へ行きます。島は女性が寝てる形で、伝説の中で頭の地域に生まれた人々は頭がよく、胸とお腹の地域に生まれると健康、足の方に行く働き者になると言われています。

日本からは空路、グアムまで3時間。グアムで乗り継いでヤップへ行きます。歴史をみると、最初はスペインによって発見されてスペインが占領。次にドイツに占領されて、第一次世界大戦でドイツが負けたあと日本が統治しました。



国にはほとんど産業はありません。日本との間に漁業協定があって、マグロ等の魚を日本に輸出しています。戦前の約30年間、日本の下でミクロネシア連邦が発展しました。地理的にも歴史的にも関係が深く、国民の2割、日本の血をひく方々がいる関係で大変親日的です。ミクロネシアは本当に自然が豊かで、イルカは呼ぶんじゃなくて海に入れば遊びに来るんです。ですからそのまま残したいと思っております。海産物が多くて、貝、カニ、伊勢えび、あらゆるものがあります。サシミという言葉はそのまま残っています。

2011年、日本のODAで滑走路が完成します。やはり交通手段がなければ、交流、経済の発展につながらないと思います。ですから2011年に向けて大使館の中にプロジェクトチームを立ち上げ、観光、国際交流、貿易、いろいろな面で実行していきたいと思っています。

折角、日本の皆さんのお金で飛行場が拡張するので是非見ていただきたい。2年後には直行便を飛ばしたいと思います。皆さんのご支援とご協力を得て日本とミクロネシアの懸け橋になっていきたいと思っています。